

【日植防シンポジウムから】

植物防疫研修に係る課題と実践的なプログラムの構築

一般社団法人 日本植物防疫協会 **そ ね 信 三 郎**

はじめに

1974年に全国農業協同組合からの依頼を受け開始した日本植物防疫協会主催の植物防疫研修会は、1983年から受講対象者を農業工業会会員にも拡大、2010年から県・市町村、関係団体の職員（農家を含む）にまで拡大し、公益事業として実施されている。受講対象者を拡大したことから、その目的を“農薬取扱者や防除指導に携わる県・市町村、関係団体職員等を対象に、植物防疫および病害虫雑草等の防除に用いる資材等（防除機、農薬等）に関する正しい知識を備えた指導者を養成する”こととした。開始した1974～2017年までに89回の研修会を実施し、延べ5,730名が受講した（図-1）（日本植物防疫協会、2013；2017）。本研修会は、植物防疫に係るすべての分野を含んでおり、また、講師が第一線で活躍している研究者、行政担当者であることから、おおむね好評であった。

しかし、研修開始当時10日間あった研修会は、現在では5日間となり、また、新たに行政での取組みや環境問題等追加すべき項目も生じてきた。そのために、いくつかの講義については割愛し、また、限られた時間に多くの内容を網羅しなければならない状況であった。このような状況の中、植物防疫に欠かせない講義が欠如している、必須の内容が欠如している、講義内容の重なりが多い等の指摘がなされた。そこで、改めて植物防疫に必要な履修科目は何か、また、その研修内容は何が必須か、について見直しを行った。2016年より“植物防疫を体系的に整理して習得する”、“受講生にとって理解しやすい研修”を目的に、植物防疫研修会の改善を検討してきた。その結果について紹介する。

本稿は、2018年1月に開催された日本植物防疫協会シンポジウム「植物防疫をどう教えるか」での講演内容をまとめたものである。

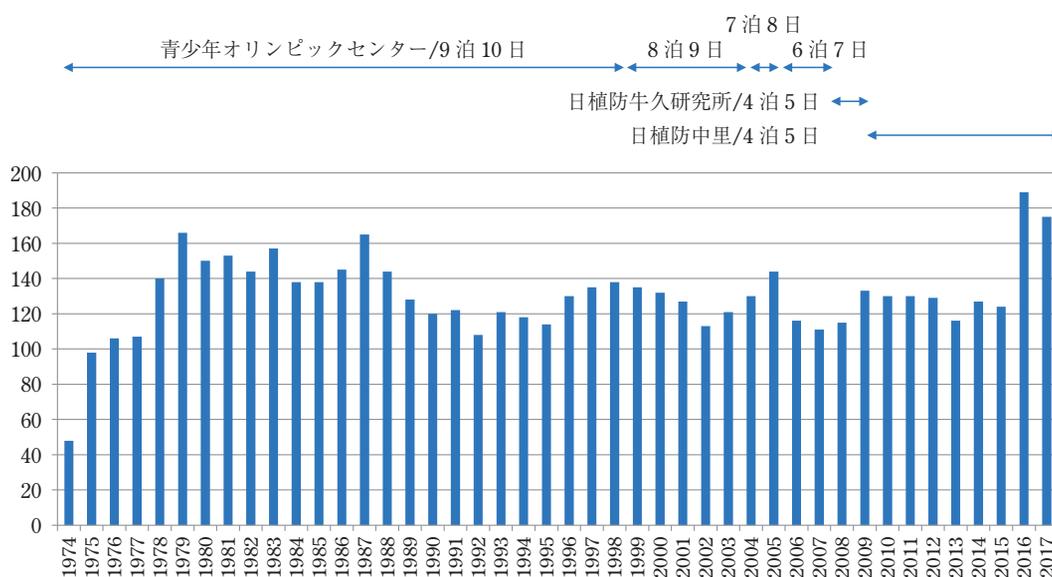


図-1 植物防疫研修会の歴史と受講者数

Current Problems and Effective Program on the Training of Plant Protection. By Shinzaburo SONE

(キーワード：植物防疫，研修)